

令和5年度 大阪府立摂津支援学校 第3回 学校運営協議会 実施報告書

1. 日 時 令和6年2月9日(金) 10:00~12:00

2. 場 所 本校 会議室(中高等部棟2階)

3. 出席者 <学校運営協議会委員>

西野 陽一(元大阪工業大学客員教授)

大矢 優子(摂津市教育委員会教育委員)

松元 広美((株)ダイキンサンライズ摂津総務課長)

佐藤 裕子(茨木・摂津障害者就業・生活支援センター所長)

中井 啓夫(高槻市柱本自治会会長)

久保田 夏美(本校保護者)

<摂津支援学校>

校長(藤井) 教頭(和田)(竹内) 事務長(與賀田) 首席(坂部・平水)

首席兼教務部長(日高) 首席兼高等部主事(三牧) 部主事(浅井・眞壁)

<傍聴者> なし

4. 年間テーマ及び協議事項

「子どもたちの自己肯定感を高める教育をめざして」

主な内容 ①今年度の進路状況について ②学校教育自己診断の結果報告

③今年度の総括および次年度の学校経営計画について

5. 説明、質問、協議内容等

(1) はじめに [進行: 三牧] [記録: 日高]

・配付資料確認

・校長あいさつ

年明けに能登での地震、羽田空港での事故等、おめでたムードが吹き飛ばような出来事が起きた。地震被害については本校からも何かできないかと思い、教職員向けに募金箱を設置している。また、被災した石川県立七尾特別支援学校への励ましとして、児童生徒が書いた応援メッセージを送付する取り組みもしている。PTAとしては府立支援学校PTA協議会から支援金を寄付する。このような災害を通じて、日常からの防災教育をしっかりとしていかなければならないと改めて感じた。

今回は、今年度の進路決定と学校教育自己診断、学校経営計画について報告させていただく。特に最近、保護者からの進路先の情報を得たいという要望を強く感じている。先日のPTA主催の進路説明会には、40名ほどの参加があった。また特例子会社「あしすと阪急阪神」の見学会には、小学部の保護者も含めて30名ほど参加があった。特例子会社については10年前まで大阪府内で10社ほどという感覚であったが、現在は48社もあると聞き、企業側の障がい者雇用の変化を感じる。その中に本校生徒の内定をいただいた会社もある。

今述べた進路決定に関わることから、本校高等部の教育課程や職業コースの在り方を見直す必要性も生じてきている。企業就労についてはコアメンバーの生徒だけでなく、その次の層の育成が課題となっており、次年度に高等部内にPTを立ち上げて検討していく予定である。こ

これらの事項についてもご意見をいただきたい。

(2) 学校より報告及び協議 [進行：会長]

①進路状況報告

教 員：『資料③-3』は、「進路のてびき」からの抜粋で進路先種別について記載している。これらの中から本人と保護者がそれぞれに合った進路を選択している。

『資料③-1』は、本校高等部第11期生の市別進路決定状況である。職業コースの生徒7名中5名と生活コースの生徒1名が就労している。

今年度の動向として、コロナ禍前並みの採用状況に戻っている。各企業でもスムーズな受け入れがなされ、今後法定雇用率も2.5%、2.7%と上がっていく。

本校では、毎年度6、7名ほどが企業就労できている。近隣校では企業就労数が減少している中で、本校はこの人数を保つことができている。

『資料③-2』の事業所種別進路状況だが、焦らずに進路を決める家庭が増えている状況である。特に摂津市では、就労継続支援B型を選択する人数が増加しており、受け入れ数も増加している。吹田市と高槻市は、ほぼ例年並みである。

長期欠席で進路が決まらない生徒については、最終的には家庭で相談して決めてもらう。その場合でも卒業後に福祉事業所と連携をとり、切れ目ない支援をめざしたい。

同じく『資料③-2』の離職率について、ここ3年間はほぼ0名である。離職につながる主な原因として人間関係のトラブル等があるが、最近では企業内で手厚いサポートを受け、仕事がしやすい環境を整えていただいているという印象である。今後も企業や就業・生活支援センターとも連携を継続していきたい。

委 員：就職しやすくなっている状況は良いと思うし、小学部の保護者も進路先について知りたいと考えていることは良い傾向である。ただ、保護者が情報を得ることはよいが、本人たちのニーズや気持ちはどのようになっているのか。

教 員：高2から進路先について体験したり選択したりするようにしており、本人への聞き取りや企業側とのマッチングも確認している。本人のニーズはもちろん大切であり、実習の様子を保護者に見てもらったりもしている。

教 員：本校では先進的な取り組みとして、小学部から係活動等で役割を担って仕事をする積み上げをし、中学部段階から企業見学・実習をしている。これは府教育庁からも評価されている。企業側からも中学部生徒の体験実習を募集していただいていることもあり、進路が多様化している状況に対応できるように今後も継続していきたい。今年度の中学部生徒の職場体験実習の参加人数は何人だったか。

教 員：9名だった(ダスキンなど)。

教 員：障害者総合支援法が令和7年度より改定され、より細やかに就労に関する計画を立てていくことになる。府全体でも取り組もうとしており、それを受けて本校の取り組み方も変化していくだろう。

委 員：働くというイメージをもってもらうためにWEBでの工場見学、インタビュー動画等、時代の変化と共に、新しい情報発信方法も近年見られる。本社も実習の候補に考えてもらえたらよい。

委員：『資料③－3』（「進路の手引き」からの抜粋）の「進学」に関する記述内容「多くの学校（大学等）において受験資格に『高等学校卒業程度認定試験』による試験科目の合格（8科目）が必要」については疑問がある。支援学校高等部卒業でも受験資格があると文部科学省HPに記載されているので確認していただきたい。

②学校教育自己診断の結果報告

教員：・昨年度同様「さくら連絡網」で実施。未回答者には再送できる機能があり、教員提出率は100%であった。

- ・保護者向け診断表の肯定的回答率は、50%台は0項目、60%台は3項目。10ポイント以上肯定的回答が増加した項目は1項目。「わからない」の選択率が減少した。
- ・児童生徒向け診断表では交流に関する肯定率は回復したが、令和3年度に及ばなかった。交流活動の大半が、本自己診断実施後に取り組み始めたことが要因の一つと分析している。ロータリークラブとの交流は定着させていきたい。
- ・保護者からのご意見は、学部名も掲載した。参観や給食試食会への意見があった。
- ・今後の課題は5点挙げている。第2回協議会でご意見いただいた「体罰」に関する項目は、別途、府の調査もあることや、本自己診断では追跡調査しにくく馴染まないことを理由に、学校教育自己診断アンケートの項目からは除外した。今後も引き続き、校長ダイレクトメール等で保護者からの直接的なご意見を受取る体制を維持する。

委員：教職員から行事の精選等の意見が数件みられるが、それほど多忙ということか。

委員：行事精選等は各学部で検討しているが、具体的な案が出てこない状況である。また、校外学習を減らす案を検討しても、「思い出づくりに残したい」と継続する意見が強かったりもする。解決するには、更なる具体的な意見を出してほしい。

委員：それぞれの意見がどれくらいの人数の意見なのか不明だが、上手く意見を拾っていてももらえればと思う。

委員：このアンケートは記名なのか。

教員：匿名である。

委員：『資料②－5』教職員集計結果の問16「学校運営に教職員の意見が反映されている」で、教職員回答の中学部・高等部の肯定率が小学部に比べてかなり低いように見えて、残念という感覚である。

委員：部主事として各学部の様子はどうか。

教員：意見を細やかに聞くようにし、関係各部署に確認をして返答するようにしている。

教員：中学部も意見を聞くようしているが、肯定率が低い理由は不明である。

委員：たしかに気になる結果である。小学部はまとまっているのか。

教員：開校から11年目になり、本校教員も入れ替わりが始まっている。ただ小学部は他学部と比べて教員の入替わりが少なく初任者も多いので、現在のシステムに馴染んでいるという意味でまとまっているかもしれない。一方、中学部や高等部では教員の入替わりが多く、他校経験者が多い。その為、様々な学校の方法が混在する状況とな

っており、それが意見の相違等に繋がっているのかもしれないという印象を受ける。

- 委員：保護者からの意見記述欄は残してほしい。保護者にとって学校に意見を伝えるための様々な手段を提供することは大切だと感じる。
- 委員：保護者の意見は大事なので、ぜひ残してほしい。
また、「学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」の項目で、保護者の肯定意見が－4ポイントになっていることが悲しい。本校は離職率も低いし、就労に力を入れて頑張っているのになぜか。
- 教員：特に小学部保護者は「わからない」が50%となり、全体として肯定回答が下がった。
- 教員：教員向けの「児童生徒が将来の進路や生き方について考える機会を設けたり、一人ひとりが興味・関心・適性に応じた進路選択ができるように丁寧な指導を行っている」も参考になるが、保護者だけでなく教員も小学部段階では進路指導を想定することは難しい。進路よりは進級という目の前の目標に向かっての積み上げを意識している。
- 委員：確かに、小学部と高等部では保護者の関心が異なることは納得できる。
- 委員：全体としては肯定的意見が50%以下の項目はないが、学部別にみると50%以下の項目がある。また、学部間で30～40ポイントの差がある項目もある。より精緻に検討する必要がある。

③今年度の総括および次年度の学校経営計画について

教員：《令和5年度 学校経営計画 評価》について 資料④

重点目標の評価

- 1 (1)①いじめへの対応 81%△ 自己肯定感を高める教育はしてきた。
- 2 (1)①TT へのフィードバック 72%△ 指導略案等の活用はしている。
③観点別評価の理解 90%△ 高等部については現在進行中。
- (2)タブレット使用率 100%◎
- 3 (1)④進路選択◎
(3)地域支援◎ 85件から112件に増加。この項目に関しては、件数が減る方が本来は望ましい。まだまだ地域への支援は必要そうである。
(4)インク回収 △ 教職員回収分が不明。次年度は指標を変える必要がある。
- 4 ① ストレス 97→107に。9月の給食停止時期と重なったことが原因か。
② 働き方改革 時間外勤務時数を29%削減できた。

委員：インクカートリッジの回収はどれくらいできたか。

委員：純正ではないものがあつたり、そもそも家にプリンターがなかったりもするので、回収は難しい面もあつた。

教員：425個の回収ができた。

委員：教職員の時間外在校時数は一覧でデータ表示等されるのか。

教員：データ表示される。時間外在校時数が30時間を超えると府教育委員会からアラームメールが届くようになっており、その教職員に個別に声かけをしている。

委員：全体的に良い評価で×が一つもないが、学校経営が上手くいったということか。課題はないのか。

教員：重点目標に挙げた事項に関しては概ね達成できたが、学校教育自己診断アンケートで出たような意見や数値が低かった項目については、今後の課題である。日高首席が先程述べたように教職員の入れ替わりが多くなってきている中で、どのように意見を吸い上げて解決していくべきか考えていきたい。

教員：《令和6年度 学校経営計画 目標》について 資料⑤

めざす学校像：変更なし

中期目標：この3年で文言を整理してきたので、基本的には変更なし。

大項目5を今回新たに追加した。令和7年度の関西万博の招待について3月に説明会がある。「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマに基づいた取組みを2年間実施し、実際に万博に見学に行けたらよい。

重点目標での新規の事項

1(2)①不登校児生へのICT対応検討

③ポジティブ行動支援

(3)①引き渡し訓練の参加率50%台

3(1)⑤海外の学校との交流

(4)PTA活動への参加

4①労働安全衛生委員会主催のおしゃべり広場実施

5 すべて新規

委員：令和5年度評価で教職員からの意見の吸い上げが課題に挙がっていたが、令和6年度計画にて5(2)「高等部教育課程再検討」と(3)「業務DX化への対応」を入れたことは、意図的か。

教員：評価育成システムで教職員には当該年度の自己目標を学校経営計画から引用して毎年度考えてもらっており、それを基に面談も行い、意見の吸い上げに繋がっている。

委員：令和5年度の5(1)児童生徒数増加の項目が令和6年度では削除されている。

教員：令和5～6年度は、ほぼ児童生徒数が横ばいなので、削除した。

委員：「1.めざす学校像、2.中期的目標」について、承認をお願いします。

「3.本年度の取組内容及び自己評価」について意見があればお願いしたい。

委員：4①おしゃべり広場(仮称)の追加説明をお願いしたい。

教員：労働安全衛生法で定められた労働安全衛生委員会が本校にも設置されており、会議を月1回実施している。職場では人間関係で悩むこともあるが、ストレスは他人に吐き出せたら解消する場合も多くある。集まる場を提供することが主旨である。

委員：以前にも意見を述べたが、一般的視点からすると摂津支援学校は安全管理には課題がある。やはり校門が開いている時間は多い。安心・安全の観点で改善が必要である。

- 教 員：昨年度に開閉しやすいように門を改修した。開門は時間を限定するようにしている。
- 委 員：摂津市内の小中学校では、オートロック化が進んでいる。
- 委 員：令和5年度より評価指標の数値が下がっている項目がある。「きらめき」の発行回数やICT研修の回数等が該当する。
- 教 員：「きらめき」は、とりかい高等支援学校と合わせて配付しているが、とりかいが年6回の発行なのでそれに合わせて本校も年6回にした。
- ICT研修は教職員への定着に合わせて、昨年度12回、今年度6回、来年度3回と段階的に回数を減らしている。ただ、来年度は外部向けの研修への関わりや準備もあるので、相対的にICT関連の取り組みは減っていない。
- 委 員：校長が異動した場合、中期目標が変わる可能性がある。その場合、次回の学校運営協議会は6月なので、再度承認できない。協議員の任期2年と校長の異動のタイミングが重なると、この事態が起きうる。
- 教 員：最終の学校経営計画の提出が4月30日であるので、6月の第1回協議会では事後承認の形になっている。現在も1月27日に府教委提出をしたものを本日に協議会で事後承認となってしまっている。後日ヒアリングがあるので、本日の内容を府教委に伝えることはできるが、スケジュール感がおかしいとは感じている。
- 委 員：このような状態が続くと、協議会の軽視に繋がるのではないかと危惧する。
- 教 員：ヒアリングでこの旨を伝える。

(3) まとめ

- 委 員：本日で自身の任期満了となる。11年間務めたが、協議員の方々にご助力いただきありがとうございました。
- 教 員：今後ともよろしく申し上げます。

【配付資料一覧】

- ① 次第
- ② 令和5年度学校教育自己診断
 - －1 実施と結果について（報告）
 - －2 ご意見欄より（抜粋・要約）
 - －3 集計結果【保護者用】
 - －4 集計結果【児童生徒用】
 - －5 集計結果【教職員用】
 - －6 横断比較
- ③ 令和5年度進路報告
 - －1 摂津支援学校11期生 市別進路決定状況
 - －2 11期生事業所別進路状況／過去3年間の卒業生の離職状況
 - －3 進路選択について（本校「進路のてびき」より）
- ④ 令和5年度 学校経営計画及び学校評価
- ⑤ 令和6年度 学校経営計画及び学校評価